



ムササビの不眠？

復刊 95号

妙たえの光ひかり

境内に住むムササビは夜行性なので、昼間その姿を見ることはない。薄暗くなった夕刻、高い木の枝に留まつてしばらく「ギャー、ギャー」という独特の声で鳴いてから、餌を求めて出かけていく。昼間見たいという方には「あの木の穴がねぐらで今は寝ていますよ」と話してきた。玄関前の松の高木で、キツツキが餌を捕るためにあけた穴だ。それがなぜかある日、昼近いのに顔をのぞかせているではないか。夜更かしならぬ昼更かしの理由はわからない。

6月のある夜、木から木へと激しく飛び回る姿に驚かされたことがある。南から渡ってきたフクロウの仲間の「アオバツク」が、巣穴を求めてこうした穴を狙うので、それと戦っていたのかもしれないと専門家は言う。その興奮で朝になっても寝付けないのではと、近ごろ加齢で不眠に悩む自分としては、勝手に同情したのだった。



行事案内



ポジャギ特別展示

6月20日(月)～7月24日(日)まで
7ページで紹介のポジャギを、期間中特別展示します。ご自由にどうぞ。



関東地区お盆参り

7月初旬
関東地区の檀徒宅に、お知らせのうえでお盆のお参りに伺います。



お盆参り、施餓鬼法要

8月1日(月)
午前 6時～10時 墓前の読経 受付
午前10時30分 安穏廟法要
同11時 本堂で施餓鬼法要と新盆法要
昼12時 おとき
午後 1時 法話



新盆法要

ご希望で8月1日(月)または7日(日)
新盆にあたる全ての精霊のお位牌を本堂に安置し、ご供養します。



関係のご家庭には直接お知らせしますので、ご参列ください。
檀徒以外の方の新盆供養もお受けします。お問合せ下さい。

お盆棚経

8月初旬～16日(火)
旧新潟市内、県内遠隔地は、連絡の上で8月初旬から。近郊のお宅は従来の日程で伺います。予定を知りたい方、お留守になる方は8月1日以降にお電話ください。

岩屋七面様祭礼

8月19日(金)
午前10時、本堂にて法要とお加持。岩屋に移動して法要。お昼にお赤飯のご供養があります。ご自由にお参りください。



万灯のあかり—妙光寺の送り盆

(第27回フェスティバル安穏)
8月27日(土)
どなたも参加いただけます。
詳細は別紙パンフレットをご覧ください。



秋季彼岸会法要

9月22日(木)祝
午前10時30分 安穏廟法要
11時 本堂にて彼岸会中日法要
昼12時 おとき
午後 1時 住職法話
予約不要ですので、自由にお参りください。

月例信行会

毎月第一日曜日
午前7時～9時 予約不要
会費 千円(当日賽銭箱にお願いします)
お参りと法話、軽い作務、朝粥の朝食やコーヒータイムもあります。



月例ボランティア

毎月15日
午前9時～12時 午後1時～3時 清掃作業等。
※7月と8月は「送り盆準備作業」で、日にちが変動します。詳しくは別紙チラシをご覧ください。
■7月は15日(金)と24日(日)の2回
■8月は25日(金)に変更
たくさんの皆様のご協力をよろしくお願い致します。



お寺でヨガ

毎月第3木曜日
7月21日(金) 8月18日(金) 9月15日(金) 10月20日(金)
午後2時～3時15分
■参加費 一回700円
■持ち物 ヨガマット、もしくはバスタオル
■講師 ノリコさん
どなたでも参加できます。予約制ですので、その都度電話での連絡をお願いします。



表紙にも書いてあるように、妙光寺も1年前からフェイスブックを始めました。HPの青い「facebook」というところをクリックすると、お寺の最新情報を見ることができます。行事の続く夏に向けて情報満載です。茶室「湛山亭」・講堂と整備が進み、清々しい場所が増えました。夏の妙光寺を、是非お訪ねください。「facebook」の訪問も、お待ちしております。(新倉恵子)

『湛山亭』由来 小川英爾

妙光寺には茶室と呼ぶ小さな離れがあります。昭和29年に講演で訪れた総理大臣就任前の石橋湛山^{いしはな さん}の為に建てられました。幸い近年茶室としての利用の機会が増え、このたび水屋の部分を改修しました。「これを機に名前をつけては」ということで、勝手ながら『湛山亭』と名付けました。

石橋湛山という政治家

石橋湛山は、早稲田大学で哲学と宗教を学び、後に現『東洋経済新報社』で多くの記事、編集に携わり昭和16年社長になりました。その主張は戦争反対、全ての植民地（朝鮮、台湾、樺太等々）の放棄、普通選挙の要求等々、徹底した民主主義・自由主義・平和主義で、戦時下でもその主張は揺るぎませんでした。

戦後の昭和21年、民間から吉田内閣の大蔵大臣に就任。占領軍経費の日本側負担軽減を実現し国民からは「心臓大臣」と称賛されましたが、占領軍から嫌われて公職追放となりました。昭和26年に議員として政界復帰。31年アメリカ追従を主張する岸信介に対抗して「社会主義圏とも国交正常化すべし」と自民党総裁選に出馬、僅差で競り勝ち総理大臣に就任しました。しかし就任後の全国遊説の無理から体調を崩し、「私の政治的良心に従う」と65日間で退任した



「千里横行」

*「千里横行」カニのようにどこまでも横に進む。中国古典からの利用で「信念を貫き通す」と意と解されます。

のです。「任期が全うできたら日本の民主主義はもつと確実なものになっていた」との声がいまだにあります。

日蓮宗僧侶の長男

故あつて母方の石橋姓を名乗りましたが、父は後に身延山第81世法主となる杉田湛誓^{たんせい}です。湛山はその長男でした。父親が山梨県増穂^{ますほ}町の昌福寺住職となり、小学3年生の時から昌福寺に暮らししました。

「父が若くして弟子入りした山梨県の昌福寺という日蓮宗の寺院には古くから湛の字を名につけるならわしがあった。父は湛誓と称し、私もこの理由で中学を卒業するころ湛山と改名したのである」（『私の履歴書』）石橋湛山は生涯『日蓮聖人遺文集』を携えていたそうです。懇請されて日蓮宗の立正

大学学長も16年間勤めました。作家・佐高信は「坊主の精神を持つ指導者」と評しています。

妙光寺との縁

昭和29年、先代住職は妙光寺第35世日寿上人没後150年忌の記念に、石橋湛山の講演会を催し大盛況でした。（2歳だった私に記憶はありません）当時の昌福寺住職の子息で、後に身延山第90世法主となった岩間湛良上人と先代が親友だったことが縁のようです。

そのとき、今「茶室」と呼ぶ新築した離れで、角田浜特産のワタリガニを食した湛山氏は、手に取った色紙にサラサラと墨で見事な蟹の絵を描き「千里横行」と書き添えました。その色紙は、現在妙光寺にあります。

この時に随行された大学生の一人、沼義昭先生はのちに宗教社会学者となり、私の指導教授で仲人として頂きました。来秋には後継住職となる私の長女には、身延山の岩間元法主から「良恵」と名付けていただきました。湛良の二文字を頂いたものです。

こうした様々な縁を後世に語り継ぐために、この離れを『湛山亭』としました。『湛山亭』で皆さんが先人に思いをはせ、安らぎのひとときを過ごされることを願っています。

（石橋湛山記念財団のHPから一部引用）



「第2の人生は、妻とともに」

新潟市福井

岡崎 隆さん（78歳）
友子さん（76歳）

仲間も一緒にいたこともあり、生涯忘れることのできない辛い思い出である。

兄の一彦さんは60歳で病死し、葬儀にはご前様に東京まで行っていただいた。

第2の人生

第一線を退いた後は、妙光寺世話人として12年間福井地区を取りまとめ、経験

を買われてお寺の会計監査を担当された。昨年の改選で定年を迎え、いまは顧問として福井地区の世話人をサポートしている。また妙光寺団体参拝への参加はもちろん、個人でも身延山久遠寺や池上本門寺に参拝している。自宅の



仏壇を改修し、古い曼荼羅御本尊の表具直しをするなど、仏事への思いは篤い。また地区の自治会長と『福寿温泉じよんのび館』の取締役社長を、各々4年間務めた。

妻の介護をしながら

この数年、妻の友子さんが脊髄の病で手術をし、その後もリウマチや両足膝関節の病気が見つかって介護生活を余儀なくされた。友子さんと一緒に、元気なお寺の行事をお手伝いできたところが懐かし

いと語る。隆さんは友子さんの介護をしながら、老人クラブ福寿会の会長、地区高齢者大学の学長も務め、忙しい毎日。最近では6人の孫と1人の曾孫の活躍が楽しみだ。この秋には母タツさんの7回忌の法要が予定されている。（鎌田記）

岡崎隆さんは旧巻町福井で、農家の三人兄弟の次男として生まれた。父親は、隆さんの弟が母タツさんの胎内にいるとき一家を置いて一人満州に渡り、以来音信不通。生まれつき両手足が不自由な母は、女手ひとつで子育て、家事、農作業をする人一倍の働き者だった。

仕事と結婚

隆さんは地元巻農業高校を卒業後、燕市の鉄工所に住み込みの事務員として勤めた。しかし会社は倒産してしまう。祖父の営む材木屋を手伝ったが、ここも経営不振で閉鎖された。そして隣村にあるゴルフ場に職を得て、送迎バスの運転手から芝刈り作業などあらゆる仕事で奮闘した。

入社2年目には知人の紹介で同じ福井に住む友子さんと結婚し、2人の男の子を授かった。友子さんもゴルフ場のキャディーとなって、ゴルファーに信頼された。やがて隆さんは管理職になり、社会保険担当の功績を認められて社会保険庁長官の表彰も受けた。在職40年を経て無事に定年退職を迎えた。

兄弟の死

弟の加祐夫さんは60年前の弥彦事件に巻き込まれ、17歳の若さで亡くなった。昭和31年の元旦、弥彦神社で押し寄せた初詣客に玉垣が崩落して将棋倒しになり、124人が死亡した大惨事である。当時としては珍しく雪のない正月で、参拝客が殺到したのが原因だった。隆さんや

間近で見る数十年、 ご判様から安穩廟まで……

妙光寺の伝統行事であるお大会には、県内の僧侶の皆さんが大勢法要に出座されます。

その中には、夏の「送り盆」（フェスティバル安穩）にも来て下さる方もあります。

この数十年の間に、大きく変化した妙光寺を、
一番近くで見てこられた県内の僧侶の方々に、お話をうかがいました。

Q みなさんと妙光寺との付き合い
いについて聞かせて下さい。

吉田 昭和48年（一九七三年）のご判様のお手伝いが最初でした。先代ご住職が亡くなる前の年です。お世話になった先輩僧から「角田のご判はしつかり務めなくてはならない」と言われて、前々日から泊まり込みました。そのころは境内も整備されていませんでしたから、まずは道路整備から始まって、旗立て用の竹を切ったり、たくさん仕事がありました。私もそのころは、20代でしたからね。

田村 私のところは先々代の祖父が戦争で手を悪くして、僧侶になるために妙光寺に弟子として入ったのが、ご縁の始まりです。その後、小川住職のお兄さんが中学時代に私の寺に下宿したり、いわば親戚のようなお付き合いになりました。私

も、大学を出てからご判様のお手伝いをするようになり、そして「フェスティバル安穩」が始まって第一回から26年間一度も休まずお手伝いしています。

小田 私のお寺は、祖父の代からの付き合いです。私自身も24歳くらいの時から、ずっとお手伝いさせていただいています。

Q ご判様は盛大な行事だったそうですね？

田村 通夜説教といまして、20人以上のお坊さんが、だいたい一時間ずつ交代で説教をするんです。それを夜通し本堂でやって、みなさん毛布を巻いて寝ながら聴いている。私みたいに若いのは、夜中の2時ごろですね。年を重ねると、いい時間帯にやれるようになるんですよ。

吉田 境内には仮設ですが茶店も出まし

た。夜は冷えるからお酒も出ましたね。

日中は露店も並びにぎやかでした。小田さんのお祖父さんにあたる和光寺のご住職は、一日目は3時間、二日目に2時間、踊りや歌も入れて合計5時間お話されていました。寄席と同じで、変化をつけないといけませんから。

田村 皆さん寝ながら聴いているんだけど、いい話だと夜中でもちゃんと起きるんです。そこはもう、てきめん違う。

吉田 角田のご判で説教する誇りが、とくに私の前の世代の僧侶には強くありました。立派なお話をする僧侶が、幾人もいたんです。そもそもご判様では、きちんと予習しないで話すと、聴いてもくえません。聴いている方々の熱心さ、命がけて聴いている感じがありました。そこに私たちも応える、勝負するチャン

です。世の中が変化してきて、「いったい自分はどこのお墓に入るんだろう」と不安に思う人が増えてきた。その中で、安

穩廟はいわば一般公開の寺です。そしてここでは、檀信徒が増え、信者さんが増えた。

吉田 考えてみれば、檀家さんたちは仏様とつながっているんです。我々僧侶は、それを中継ぎしている存在にすぎない。安穩廟は、その一つのやり方ですね。こういう世界があるのだということ

小田 とにかく安穩廟を通じて、小川住職が布教されていることは間違いない。そして成果があがっているのは、素晴らしいことです。

田村 「フェスティバル安穩」は、みんなで創り上げる寺の行事という感じがします。そうは言っても、私も「これ、いつまでやるのかな？」と思いつながら参加してきましたけどね。最初のころは毎年「今年でもう終わりだよな。」と聞いて、10年目には「これで終わりだろう？」と聞いて、そうしているうちに27年です。

小田 私は昔の本堂も知っています。今の本堂は斬新な造りで、小川住職の近代的な考え方が、建物に現れています。そして最近、来る人が増えましたね。見たことのない人が来て、お寺を手伝うようになったと、本当に思います。

Q お寺をめぐる世の中の状況が、確かに変わってきていますね。

吉田 「ぶっちゃけ寺」なんていうテレビ番組までできましたね。でもあいう番組を見ていると、都市部のお寺を基準にした見方があると思います。たとえば、戒名料、なんていう考えは、新潟県内では決して一般的なものではない。

小田 戒名―法号は、少なくとも日蓮宗では、僧侶が与える責務を負っているものです。金銭に替えるものではない、と思います。

田村 離檀料で檀家をしばるなんて話も聞きます。新潟にもそういうお寺もあるのでしょうか、私たちには考えられませんよ。

Q これからのご自身のお寺は、どうありたいと思っていますか？

吉田 私は自分が寺にいる時は、毎朝必ずお経をあげます。朝、仏様に問いかけないで何をするのだ、と自負があります。幸い中心部に寺があるので、葬儀や墓について相談に来る方は少なからずいます。今の仏教界はいわば乱世です。そういう時にこそ周りの人を大切にして、やっていきたいと思っています。

小田 私の寺は農村部ですが、なるべく誰もが来やすいお寺にしたいと思っています。いろんな方が来てくれるお寺にしていきたいですね。

田村 私の寺は塔頭寺院たつちうぎんですから墓地がなく、お檀家さんは増やせません。でも、宗派関係なく様々な人と話をしていくことが大事だ、と思っています。



吉田錬勝上人（67歳）

新潟市妙覚寺ご住職。お寺は新潟市古町の古くは寺町と呼ばれた中心地にある。妙光寺開創七百年身延山法要では、元新潟東部宗務所長として、ご挨拶をいただいた。



田村憲吾上人（63歳）

新潟市法雲院ご住職。お寺は新潟市西堀の寺町地区にある。妙光寺のお大会・お盆には、いつもお手伝いに来ていただいている。とくに「フェスティバル安穩」には平成2年の第一回から、法要責任者として一度も欠かさず出座されている唯一の僧侶である。



小田泰智上人（39歳）

長岡市和光寺ご住職。お寺は旧寺泊地区内陸部の農村地帯にある。この十年余は、お大会・お盆など、いつも後片付けまで手伝ってくださる若手。「フェスティバル安穩」にも毎年出座している。

Q では、これからの妙光寺についてはいかがですか？

吉田 ここは安穩廟がありますから、相応の責任があるお寺です。妙光寺は小川住職の才能でこまできました。全国に永代供養墓は多々ありますが、一見同じことをしていても安穩廟は全然違います。後のケアが違うのです。後継住職である良恵上人がどうやっていくのか、は大きな課題になります。

田村 でも行事の時の妙光寺を見ていると、檀徒さんの意気込みがすごいですね。地区ごとの当番があるようですが、率先して自分たちの役割を喜びをもつてやっているところが、他のお寺と全然違います。あの方々と一緒に、良恵上人も自分のやり方をみつけていくのがいいと思いますね。今日はどうもありがとうございました。（聴いた人 編集部・新倉理恵子）

だいえ ご妙判お大会 5月14日㊤

日蓮聖人の遺されたお手紙と印鑑の写しを御開帳するご判様。



朝方はあいにくの雨でしたが、各地からたくさんの皆さんが参拝に訪れました。



8人の稚児が出仕。控室で衣裳を着せてもらい、出番を待ちます。



雨天でお茶席は野点から土間に変更。ここもまた趣があり、好評でした。



11時。佐藤上人の水行の頃には雨も上がり、春の日差しが溢れていました。

客殿改修工事進む

奥の和室の改修工事が進行中です。やや暗い20畳が、大きな円窓から竹林の見える椅子式25畳の明るい講堂に変身します。中庭の塀も新しくなります。



東工大茶谷研OB会 5月21日㊤

300年前の建物を、大屋根で覆い保存した妙光寺の客殿。35年前にこの美しく斬新な設計をしたのが、当時の東京工業大学建築学科、茶谷正洋教授(2008年没)です。そのお弟子さんたちが、新緑の妙光寺で茶谷研究室OB会を開き、先生の偉業を偲びました。



春の一日研修 「妙光寺ゆかりの史跡参拝の旅」

4月9日㊤

妙光寺周辺の霊跡を住職の解説で巡る小旅行。37人の参加者が大型バスで楽しく研修しました。



寺のうごき春



春彼岸 3月20日㊤

まだ肌寒い角田の春。安穏廟と本堂での法要のあと、寒中100日間の荒行から戻った佐藤上人が、修行の報告をしました。



地元情報誌『キャレル』に載りました。

6月20日発売

新潟県内の情報誌『キャレル』7月号が、安穏会員でボジャギ作家の道見恭子さんを特集。妙光寺にも取材に来て、お寺所有のボジャギの棺掛けやタペストリーなどを撮影しました。記事では、道見さんと住職のご縁も紹介されています。

また6月4日には全国誌『日経おとなのOFF』7月号で安穏廟が取り上げられました。

年会費お願いします

年会費の納入を8月末までにお願
いします。遠隔地の方には郵便局の
振替用紙を同封、周辺地域の檀信徒
宅には地区世話人が伺います。
*お盆の施餓鬼塔婆、「送り盆」の献
灯も合わせてお願い致します。

定例役員会議の開催

6月25日の定例会議で前年度決算
と今年度予算が承認されました。改
修工事の内容、来年の住職交代式な
どについても相談しました。

人事

良恵上人6カ月の研修へ

6月1日から良恵上人が松戸市・
本土寺での『日蓮宗布教研修所』に
入りました。宗門の指導的な僧侶を
養成する所です。今年の研修生は男
女計7名。期間は11月末までです
がお盆は休暇で戻ります。また夏の
送り盆には、研修生が全員で参加し
ます。なお夏場の手不足を補うため、
小川綾が手伝いに戻る予定です。

総交代

総代のおひとり内藤昭栄さんが、
体調不良のため任期途中ですが辞任
されました。後任に内藤精司さんが、
総代に就任されました。内藤昭栄さ
んには開創700年法要ははじめ多大
なご尽力いただきました。心より感謝
申し上げます。

日蓮宗々務院で。右から4人目が良恵上人



改修工事進行中

来年の住職交代に向けた客殿の改
修工事を進めています。夏までには
講堂と茶室の水屋が完成します。そ
の後、経費を見ながら玄関の床板張
替、一部で畳の入替等順次進める予
定です。

皆様からの浄土基金へのご寄附と、
貯金が財源です。詳細は改めてご報
告します。お礼とともに、引き続き
ご協力をお願い申し上げます。

現住職最後の『生前法号』

日蓮聖人ご命日法要の『お会式』
が10月30日⑧に決まりました。総本
山身延山久遠寺総務部長・吉村明
悦上人を特別説教にお招きしました。
吉村上人には、開創700年法要で
大変お世話になりました。

この日行う生前戒名の授与式が現
住職による最後の授与となります。
詳細は次号でお知らせします。お考
えの方には説明書をいつでもお届けし
ますので、気軽にお問い合わせくだ
さい。

割引タクシー会社変更

妙光寺発着限定で
1割引の栄タクシー
が営業を取り止め、
代わりに弥彦タク
シーと契約しました。
JR越後線巻駅構内に
常駐します。内野駅
ご利用の方は左記の
電話番号に予約して
ください。迎車料金
は不要です。



弥彦タクシー 0256-72-2189
フリーダイヤル 0120-827-818

誌上法話 小川英爾

合掌の形と心

皆お釈迦様に合掌し、敬意をいदैて、
修行を完成する道をお聞きしようとしています。

『法華経・方便品第二』

幼子に合掌される

昨年7月のことです。関東のお盆で檀徒のお
宅を訪ねる朝、駅の階段を上っているときでした。
危なげな足取りで階段を下りてきた2歳か3歳く
らいの男の子が、私の姿を見て可愛い掌を合わ
せて合掌しおじぎをしてくれたのです。驚いて私
も合掌で返し「おはよう」と声を掛けました。隣
にいた若いお母さんが「この子はお坊さんが大好
きなんです」と話してくれました。

日本では合掌はお参りするときと、食事の前後
しか行いません。しかしインド・ネパール・タイ
などでは、お互いの日常の挨拶で合掌し頭を下
げます。これには「あなたを敬います。尊びます」
という意味が込められています。

合掌の形

仏教では合掌の形が12通りあると説きます。
一番目の^{けんじつ}堅実合掌、は掌をしっかり合わせる私
たちが普段行う形です。二番目の^{こしん}虚心合掌、は、
掌の間に虚空を表わす隙間のある形です。前述
の幼子もこの形です。7番目の^{きみょう}帰命合掌、は指
をずらして重ね、右手の指を少し先に伸ばす形
です。滝に打たれる修行で、体に力が入る姿で
の合掌を想像してください。

他の形の中には合掌とは思えないようなもの
もあります。12通りとは後世の理屈付けで、お
釈迦様の時代は両掌を合わせる基本的な形だけ



だったと言われています。基本の形が一番美しく
も見えます。

合掌の心

『法華経』の中には「一心に合掌してお釈迦
様のお顔を仰ぎ見る」と言った具合に、「合
掌」という語がたくさん出て来ます。また
^{じょうふぎょうぼさつ}常不軽菩薩、という方が自分を非難する人を含
め、あらゆる全ての人に合掌し敬いの態度を取っ
た有名な話もあります。

仏様をはじめとする自分が敬い崇敬する対象
や、故人に合掌することはたやすいことです。でも
生身の人間、とりわけ自分を攻撃してくる人、
憎しみを覚める人に対しての合掌は、とても難し
いはず。常不軽菩薩は、人間は誰もが尊い
ものだとして誰彼無く合掌し礼拝することで、自
らを磨き他人から拜まれる存在となりました。

拜まれることで相手も自分も変わります。それ
が合掌の心です。冒頭の幼子の合掌は、本当に
素直な気持ちが直接伝わってきて、とてもうれし
い一日が過ごせました。

「穏やかに進んでいこう！」

モンタとともに新築住居

お寺で飼っている犬のモンタは13歳と6ヶ月になり、一日のほとんどの時間をウトウトして過ごしています。おかげさまで住居の新築工事が終わり、モンタも4月から入居させてもらっています。新しいリビングで、太陽の暖かい光をあびながら快適に暮らしています。もうお寺のお客さまをお出迎えすることも、散歩に行くこともできませんが、静かに穏やかな余生を過ごしています。

私も嫁にきて三十数年、初めての気兼ねのない住居で、「今日はお休み！」と休日を決めて、パジャマのままコーヒーを飲んだり、思いきり昼寝ができることの喜びを味わっています。本当にありがとうございました。

なにげない日常に魔法をかけて

私はこの4月で56歳になりました。丈夫な胃腸、腕力が自慢だったのが、なんだかたいしたこととしてないのに、ひざや足首腰が痛くなったりして、「あれれー」と思っています。これは確実に老化現象に違いない、と途方に暮れていました。ところが先輩がた（お寺で出会う女性の方々）は「60歳になると青空よーん」と言われますので、今が過渡期なのだと辛抱です。確かに体は衰えています、（うまく言いあらわせないけれど）欲がなくなり、腹の立つことも減り、男女の区別なく楽しく気軽に話せ、いつ

までも生きてはいられないのだという自覚が芽生えたことなど、どれをとってもよいことだらけ。気分は楽しいです。もともと美容にはこだわらないので、白髪もしわもあまりショックでもないし。（笑）

NHKの番組で、北欧の切り絵作家アグネータさんの特集をしていました。誕生日に集まった友人が楽しく合唱するのです。「♪百歳までいきよう…」と。年がいったら、なにげない日常に魔法をかけると景色が違って見える。限られている時間を大事にしたい。そうすると時間や人生が貴重なものに思える。あーそうだね。心がけひとつで、穏やかな生活を心がけたいものです。

あれこれ、お願いいたします。

6月から良恵上人が半年間の研修にでかけ、またまた人手不足の妙光寺になってしまいました。スタッフ一同も頑張っていますが、不足がありましたらご容赦ください。

そして経理担当の私からのお願いです。遠隔地の方には、今年の〃会費納入お願い他、を同封しています。郵便振り込みの方はお名前・住所に間違いがないかご確認ください。お寺の受付で納入される方も、この振替用紙をお持ちください。作業上とても助かります。

それから、ボランティアで『送り盆』の準備作業をします。行事案内をご覧ください。お手伝いをよろしくお願いします。

質問

ごしゅいん ごしゅだい
御朱印と御首題について、
教えてください。



提寺の住職に書いて
いただきますよう。
いずれにしろ、スタ
ンプ集めではありません
ん。お参りの目的は御
首題や御朱印を集める
ことではなく、信仰心
が大切なのです。

近年、「御朱印集め」がブームになっています。華やかな装丁の御朱印帳を取り扱う書店もあり、特に女性の間で「パワースポットめぐりの一環として人気があるようです。」
元々御朱印帳は「納経帳」とも呼ばれ、〃写経〃をお寺に納めた証として文字通り朱色の印判を押して頂くものでした。それが近年は〃参拝した証拠〃が主流になっています。
日蓮宗では「御首題」と言って、ご朱印とは区別しています。「御首題」は「南無妙法蓮華經」の御題目のことで、「御首題帳」にはお題目と寺の名前を書いて朱印を押します。そこには法華經に対する信仰の証という意味があります。妙光寺では御首題帳を持つてお参りされる方がやや多いでしょう。
御首題だけを頂戴する御首題帳ではなく、神社や他宗派寺院の御朱印が混ざった御朱印帳の場合、日蓮宗寺院では断られることもあります。御首題帳は日蓮宗信徒の証ですから、最初の頁は菩提寺の住職に書いていただきますよう。

第6回

「日蓮宗布教研修所」



私は今、「日蓮宗布教研修所」で勉強しています。千葉県松戸市にある本土寺さんに間借りをして、法華經の教えや法話の仕方など、仏教を伝える方法についての様々なことを学ぶ場所です。6月1日から11月30日までの半年間、他の6人の研修生と生活を共にしながら勉強です。
この原稿を書いている今は始まって10日ほど……。朝は早く、夜も課題をこなしていると遅くなっています。でも講義や研修はとても面白く、忙しくも充実した毎日を過ごしています。このように、勉強に集中出来る機会を頂けたことは、とても有り難いことだと思っています。
研修仲間は性別も年齢もバラバラなのですが、すっかり打ち解けました。皆、面白くて真面目な人ばかりです。8月の送り盆には全員で参加する予定です。花押ラリーのメンバーにもなっているので、見かけたら是非声を掛けて下さい。